

平成21年（2009年）4月23日
交通対策・中野駅周辺整備特別委員会資料
区民生活部産業振興担当
まちづくり推進室拠点まちづくり担当

中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.2（素案）について

警察大学校等跡地地区などの中野駅周辺まちづくりの動きを踏まえ、改定の検討を行い、このたび、「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver.2（素案）」としてとりまとめたので報告する。

1. 策定の目的

- 中野駅周辺のまちづくりについて、区民・民間事業者・行政が共通の目標・認識を持ち、まちづくりの機運を高める
- 中野駅周辺のまちづくりについて広く区内外にアピールし、中野の存在感・発信力を高める

2. 内容

別添「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver.2（素案）」のとおり

3. 今後の進め方

- 5月 中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver.2（素案）意見交換会の実施（「中野駅地区整備構想」素案と同時開催）
 - 12日（火）午後7時～9時 昭和地域センター
 - 13日（水）午後7時～9時 新井地域センター
 - 14日（木）午後7時～9時 桃園地域センター
 - 15日（金）午後7時～9時 区役所7階会議室
- 6月 意見交換会実施状況 区議会報告
- 8月 中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver.2（案）作成
区議会報告
- 9月 同 パブリックコメント
- 10月 中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver.2 策定
同 区議会報告

中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.2
(素案)

東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点づくり

～ 中野ならではの個性を磨き、東京の新たな都市活動の拠点をつくる、にぎわいと環境の調和するまちづくり～

目 次

1. グランドデザインとは 2
2. まちづくりの基本的な考え方 4
3. 個性あふれるまちの魅力づくり 6
4. まちをつなぐ動線づくり 10
5. 新時代にふさわしい基盤づくり 11
6. 展開ステップの考え方 14

1-1. 「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン」とは

○中野駅周辺のまちの将来像を示したもの

- ・区は、中野区基本構想において「持続可能な活力あるまち」となることを目指し、中野駅周辺はその中心に位置付けられている。
- ・中野駅周辺まちづくりグランドデザインでは、中野駅周辺のまちが区全体の活力を牽引するべく、まちづくりの方針と将来のあるべき姿を明らかにする。
- ・中野駅周辺まちづくりグランドデザインは、中野区基本構想や都市マスターplanに基づき、現在検討中の産業振興プログラムなど区の個別計画とも整合を図りながら、ソフト・ハード両面からのまちの将来像を示す。

1-2. グランドデザインの策定目的

○中野駅周辺のまちづくりについて、区民・民間事業者・行政が共通の目標・認識を持ち、まちづくりの機運を高める

- ・公民協働のまちづくりを進め、新しい時代にふさわしい都市基盤整備、新たな活力を生み出す拠点づくりのための指針とする。
- ・中野駅周辺で働く・住む・学ぶすべての人が、グランドデザインを通じてまちづくりに関する目標像を共有し、まちづくりの機運を共に高めて行く。

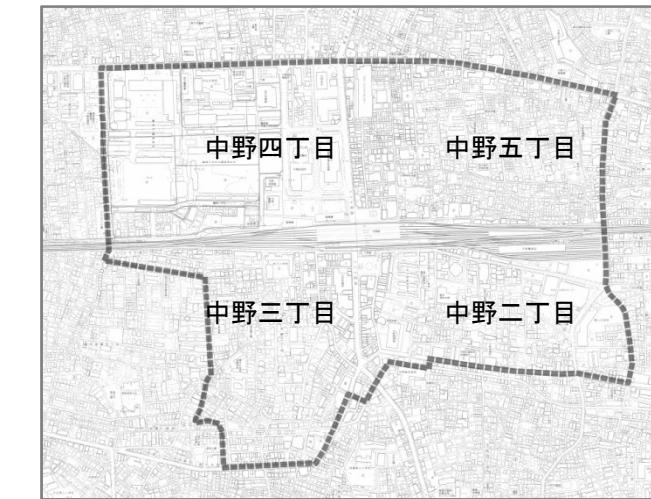
○中野駅周辺のまちづくりについて広く区内外にアピールし、中野の存在感・発信力を高める

- ・住宅都市から、業務・商業が適切に配置された活力あるまちへと進化する中野駅周辺を、グランドデザインにより広く発信して行く。
- ・中野駅周辺のまちづくりの取り組みを広く発信することにより、中野の存在感・注目度を高め、より良いまちづくりの循環を生み出す。

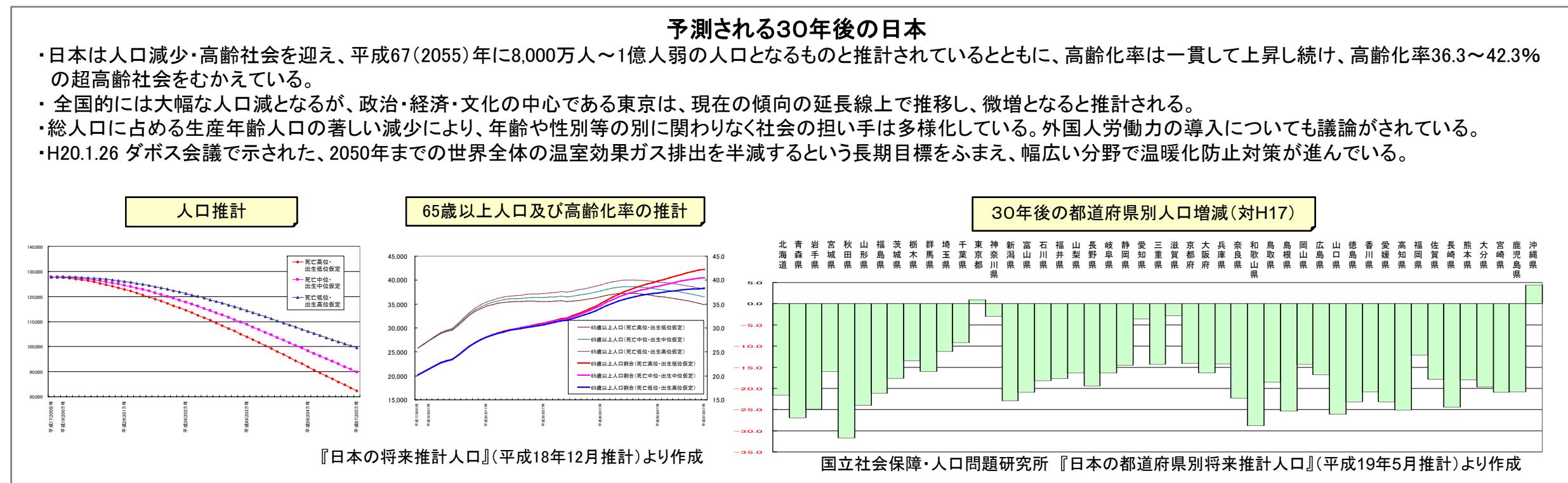
1-3. グランドデザインの策定範囲

○中野駅を軸に、中野二丁目、三丁目、四丁目、五丁目全域を含む約110haを対象とする

- ・中野駅を軸に北は早稲田通り、南は大久保通り、東はもみじ山通り、西は杉並区境までの、中野二丁目、三丁目、四丁目、五丁目全域をカバーする。
- ・南東部は第九中学校周辺(中野一丁目の一部)を含む。
- ・新たなまちづくりの影響と密接な関係にある住宅地についても駅周辺との連携を踏まえ検討することで、総合的な魅力と居住性を高め、まち全体のポテンシャルをより向上させる。



1-4. まちづくりがめざす30年後の中野

**持続可能な活力ある30年後の中野**

国際都市東京の新たな活動拠点となった中野駅周辺からのにぎわいの波及効果によって、中野区全域の経済活動が活性化するとともに、4つの戦略に基づく取り組みの推進によって、中野区は、働き・楽しみ・住みたくなる「持続可能な活力あるまち」となっている。

**10か年計画の4つの戦略の取り組み**

- ・魅力ある活力に満ちたまち
産業構造の変化に柔軟に対応した新たな都市型産業を誘導
- ・地球環境にやさしい緑豊かなまち
自然エネルギーの活用と省エネルギー機器の普及によりCO₂を削減、公園等の公共施設の緑化、民間のみどりの誘導
- ・子どもたちが元気いっぱい育つまち
乳幼児や児童の一時保育などの支援策の充実による、安心して働きながら子育てできる環境の形成と教育環境の充実
- ・健康で生きがいをもって暮らせるまち
気軽に運動できる機会や環境が充実し、多様な社会参加の機会が用意され、高齢期まで生きがいを持って暮らせる環境の形成

中野駅周辺まちづくりでの取り組み

- ・中野駅周辺まちづくりにより、新たな都市機能と豊かなみどり、先端的業務空間、広域交流拠点、個性あふれる商業、良好な住宅地等、様々な顔が中野駅周辺にコンパクトに集積され、国際都市東京の新たな活動拠点を形成
- ・中野駅地区の再整備により、広域的な交通結節機能の強化や、それぞれのまちをつなぐ動線が整備され、中野駅周辺の回遊性が向上
- ・中野ならではの個性・活力の発信や、先端的な情報基盤の整備活用など、新たな時代にふさわしい中心市街地を形成し、区全体のまちづくりを牽引

2-1. まちづくりが目指す姿

【中野駅周辺まちづくりが目指す姿】

東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点となる

- ・中野駅周辺は、中野区全体にとっての顔であり、中心拠点である。
 - ・中野駅周辺は、安全や環境と調和した、東京の新しい活動拠点として魅力を生み出す。
 - ・中野駅周辺は、都心から多摩方面への結節点にあって、大都市東京の活力を生み出す新たな発信源となる。

広域視点での中野区

中野駅周辺のまちづくりにより、センター・コア再生ゾーンと多摩方面をつなぐ、東京の新たな活動拠点を形成する

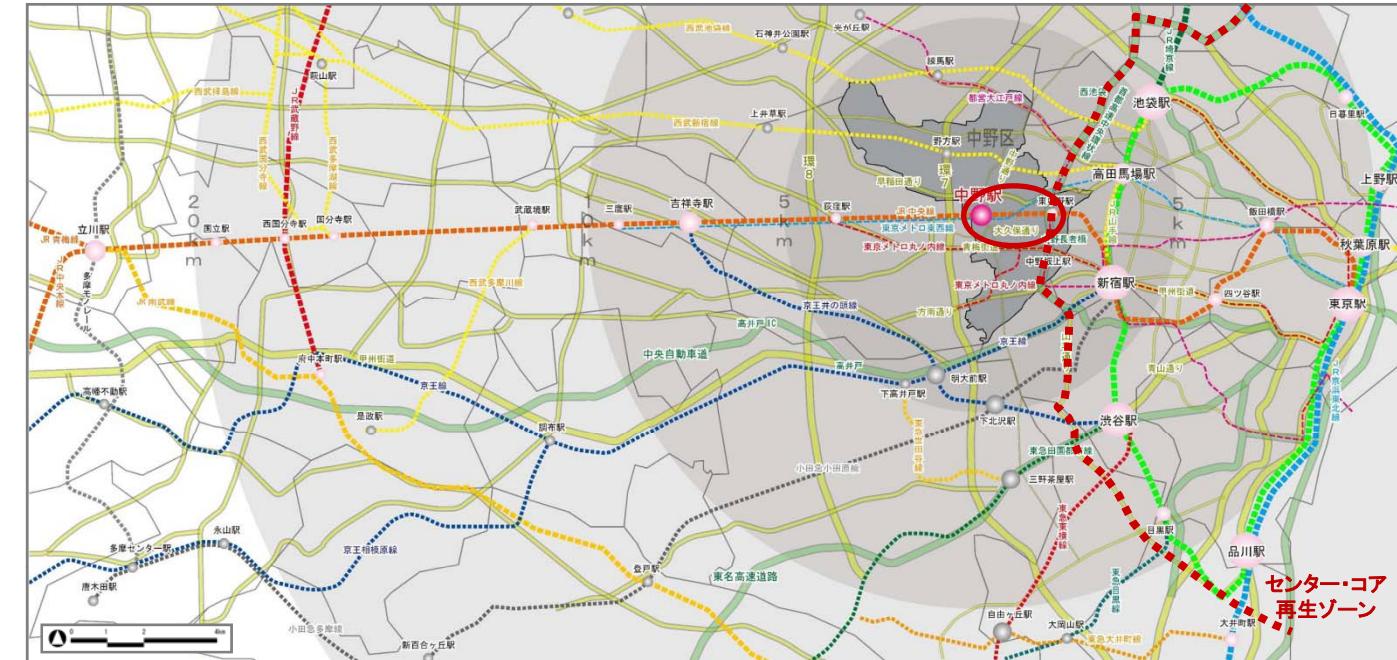
中野駅周辺は日本経済の中核を担う東京駅周辺から約10km、副都心の新宿駅周辺から約4km、多摩の中心である立川駅周辺から約25kmに位置している。また、中野駅は東京の東西の大動脈である中央線の主要駅である。

中野駅周辺は、都心から多摩方面にかけ、交通アクセスに非常に優れた交通の結節点であり、東中野、中野坂上とあわせて、多摩方面からセンター・コア再生ゾーンへ向けた、賑わいの玄関口を形成している。

中野駅周辺のまちづくりが進むことで、通過結節点的存在から、自ら集客・発信する東京の新たな活動拠点を形成していく。

センター・コア再生ゾーン：概ね首都高速中央環状線の内側で、首都を担う東京圏の中心に位置し、国の政治・経済・文化の中核としての役割を果たしているゾーン。多様な機能の集積により、総合的に国際的ビジネスセンター機能等を発揮するゾーン。
(東京都『東京の新しい都市づくりビジョン』2001年10月)

都心から多摩方面への結節点となる中野



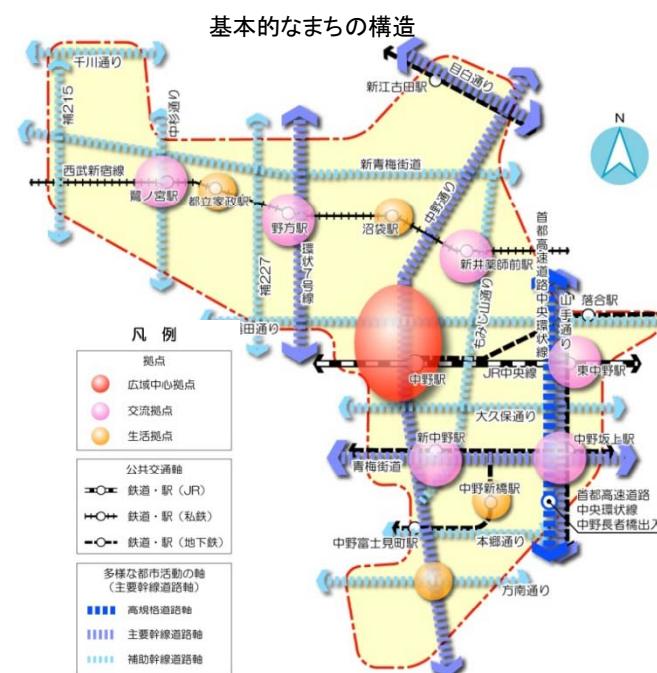
中野区における中野駅周辺

中野駅周辺は区内の広域中心拠点、そして東京の新たな活動拠点として区全体の活力・まちづくりを牽引して行く

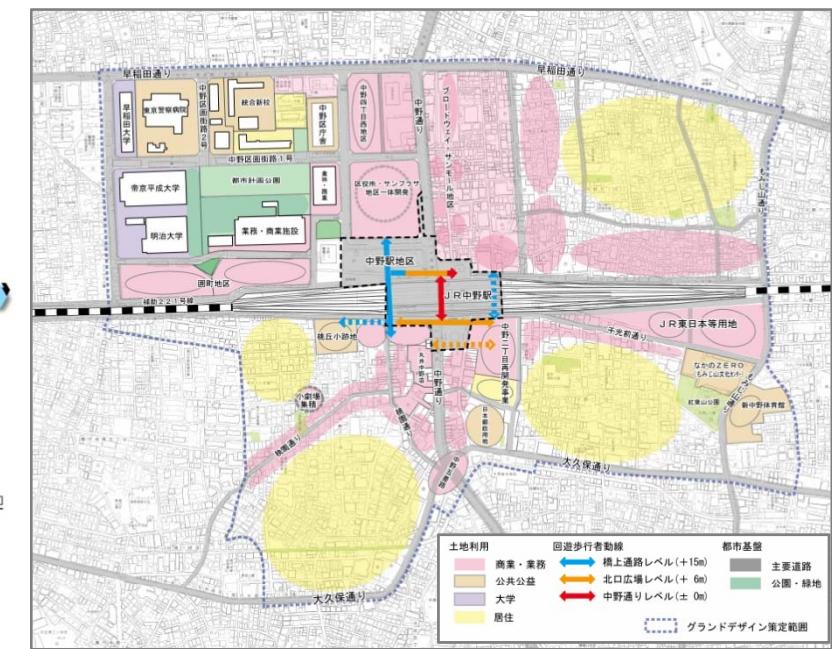
中野駅周辺は中野区における唯一の広域中心拠点として、中野の玄関口の交通結節点機能を強化し、さらに商業・業務、文化その他広域性を有する諸機能の集積を強化することで、東京の新たな活動拠点を形成する。

中野駅周辺以外の交流拠点や生活拠点と役割を分担し、相互に連携することで、中野区全域での区民生活や企業活動を支える基盤を形成する。

中野駅周辺のまちづくりが進むことで、多様な都市機能が集積し、個性的で新しい魅力を発信する中野の顔、そして東京の新たな顔となる。



中野駅周辺まちづくりグランドデザイン策定範囲



2-2. まちづくりの基本目標

【中野駅周辺まちづくりが目指す姿】

東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点となる

【まちづくりの基本目標】

中野の地域経済やまちの活性化

中野駅周辺のまちづくりが区全体の活力を牽引すると共に、東京の新たな活動拠点となることを目指す

まちの個性の発揮と求心力、集客力の向上

中野駅周辺のまちが各々の個性を磨くことで集客力を高め、多様な魅力の集積により、まち全体の求心力・回遊性を向上させる

働き・楽しみ・住みたくなるまちの実現

中野駅周辺のまちづくりを通じて、公民協働の産業育成・にぎわいづくり等、様々な人が集い、暮らし、活動する場と機会を拡充する

防災性能が高く環境と調和するまちの実現

中野駅周辺のまちづくりを通じて、これからの時代にふさわしい安心安全、環境・快適性、利便性を備えた中野ならではの基盤を整えて行く



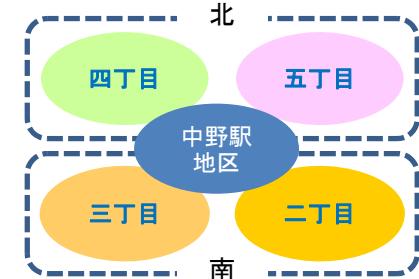
2-3. まちづくりの視点

【まちづくりの視点】

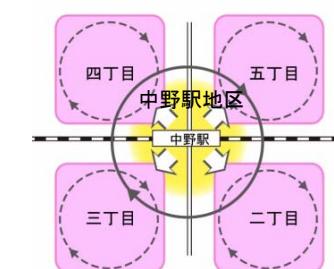
誰もが誇れる都市基盤を築くと共に、中野ならではの魅力を加えた付加価値の高いまちづくりを推進する

1. 個性あふれるまちの魅力づくり

- 中野駅周辺のまちを四つのゾーンで捉える
- 各ゾーンの個性を磨くことで、まちの集客力・集積力を高める

中野二丁目、三丁目、四丁目、五丁目の
各々の将来像を示します**2. まちをつなぐ動線づくり**

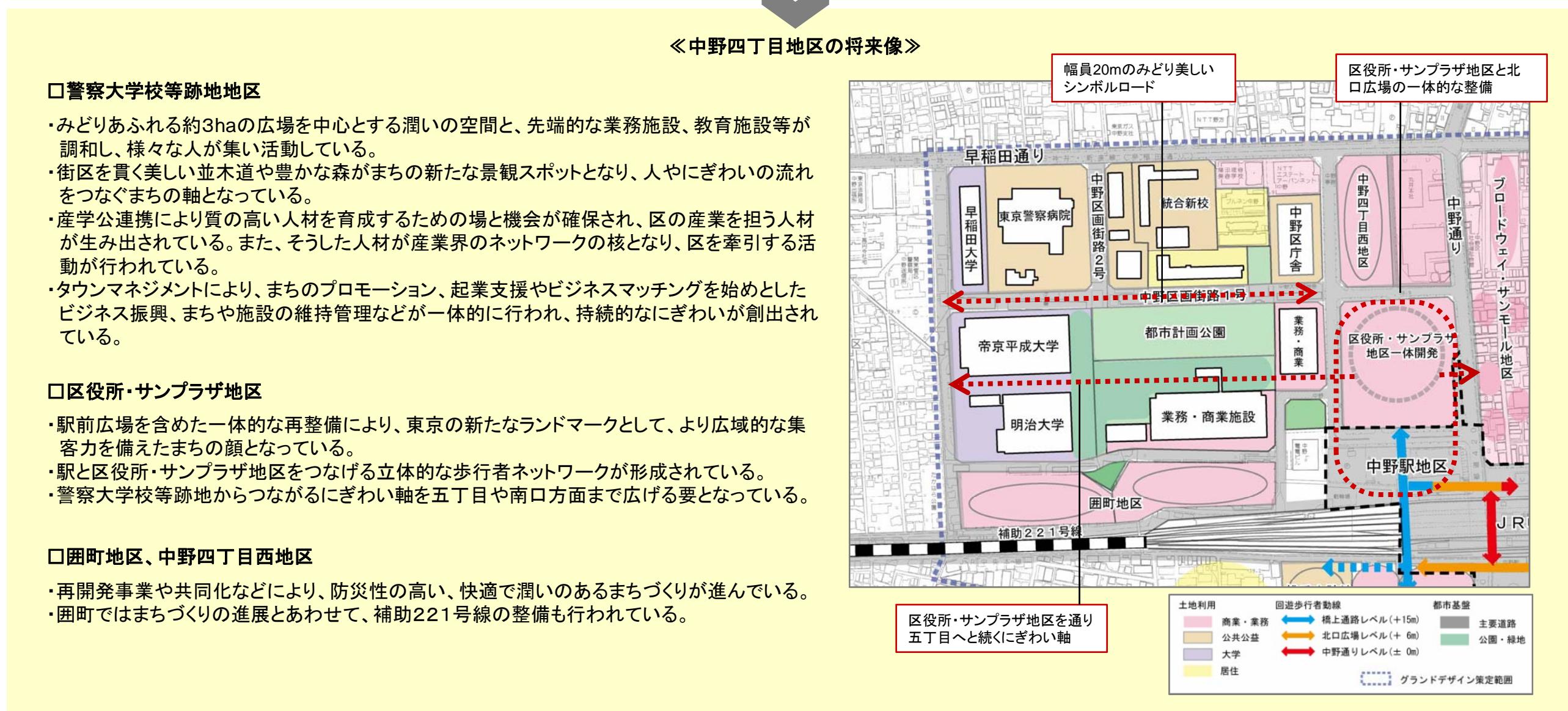
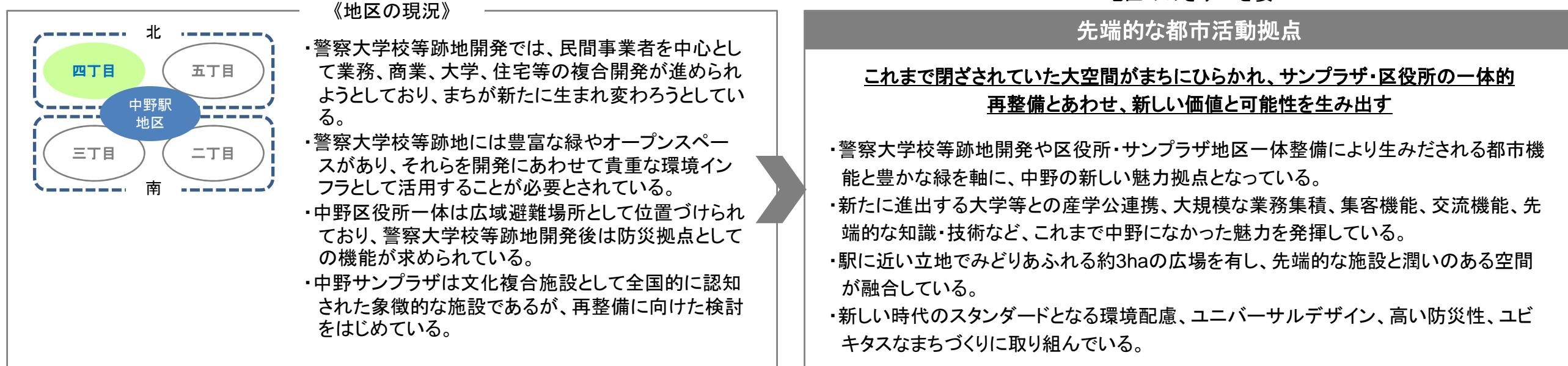
- 異なる魅力を楽しむために、まちとまちの回遊を生みだす
- 新たな回遊や活力を相乗的に繋ぐ要としての動線の整備を行う

中野駅地区の将来像と回遊イメージを
示します**3. 新時代にふさわしい基盤づくり**

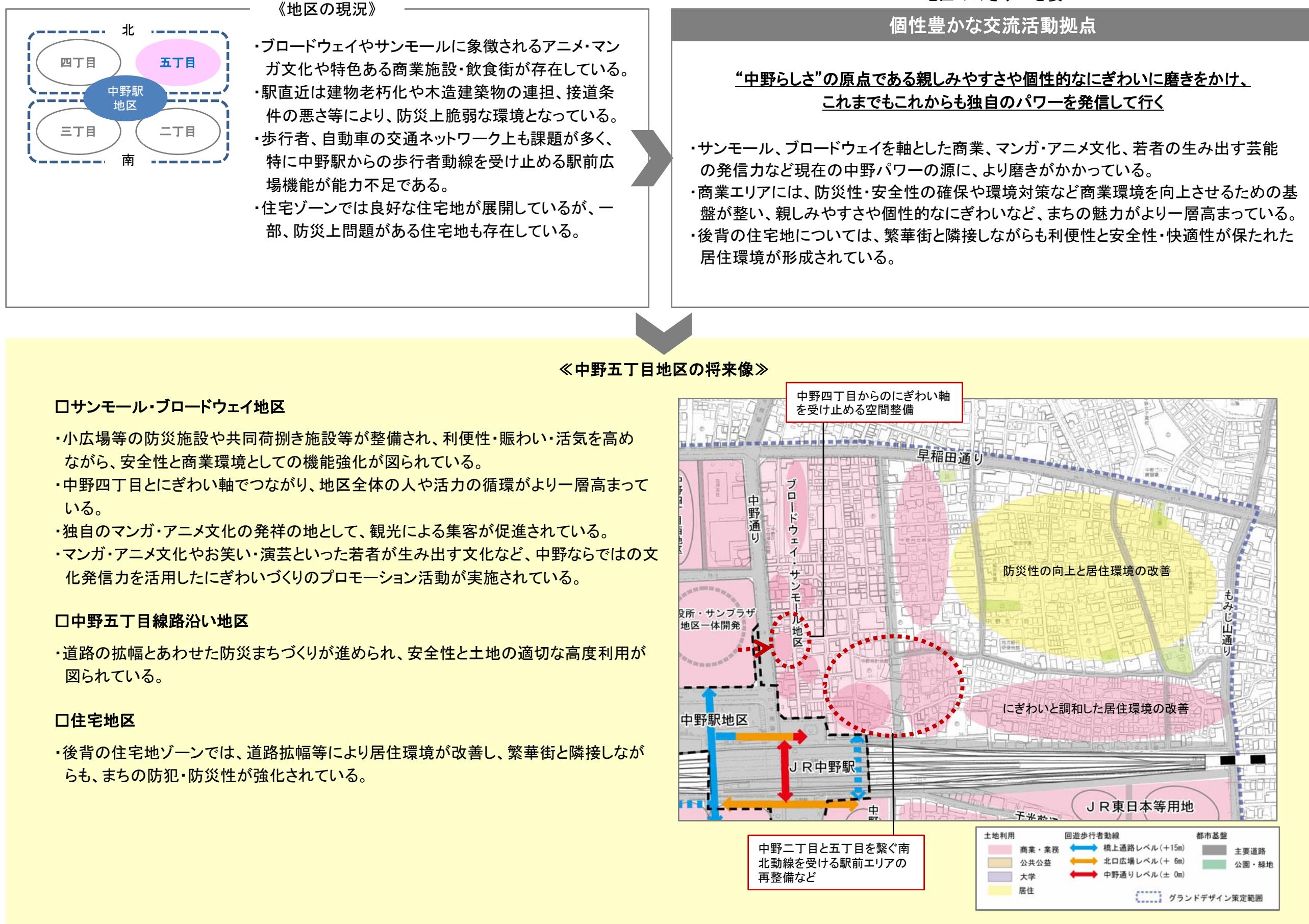
- 新しい時代にふさわしい都市基盤を整備し、誰もが誇れるまちになる
- 活力やにぎわいを生み出す機能、環境アメニティ、先端的な情報基盤などを形成する

中野駅周辺全体の活力・環境・情報基盤の
将来像を示します

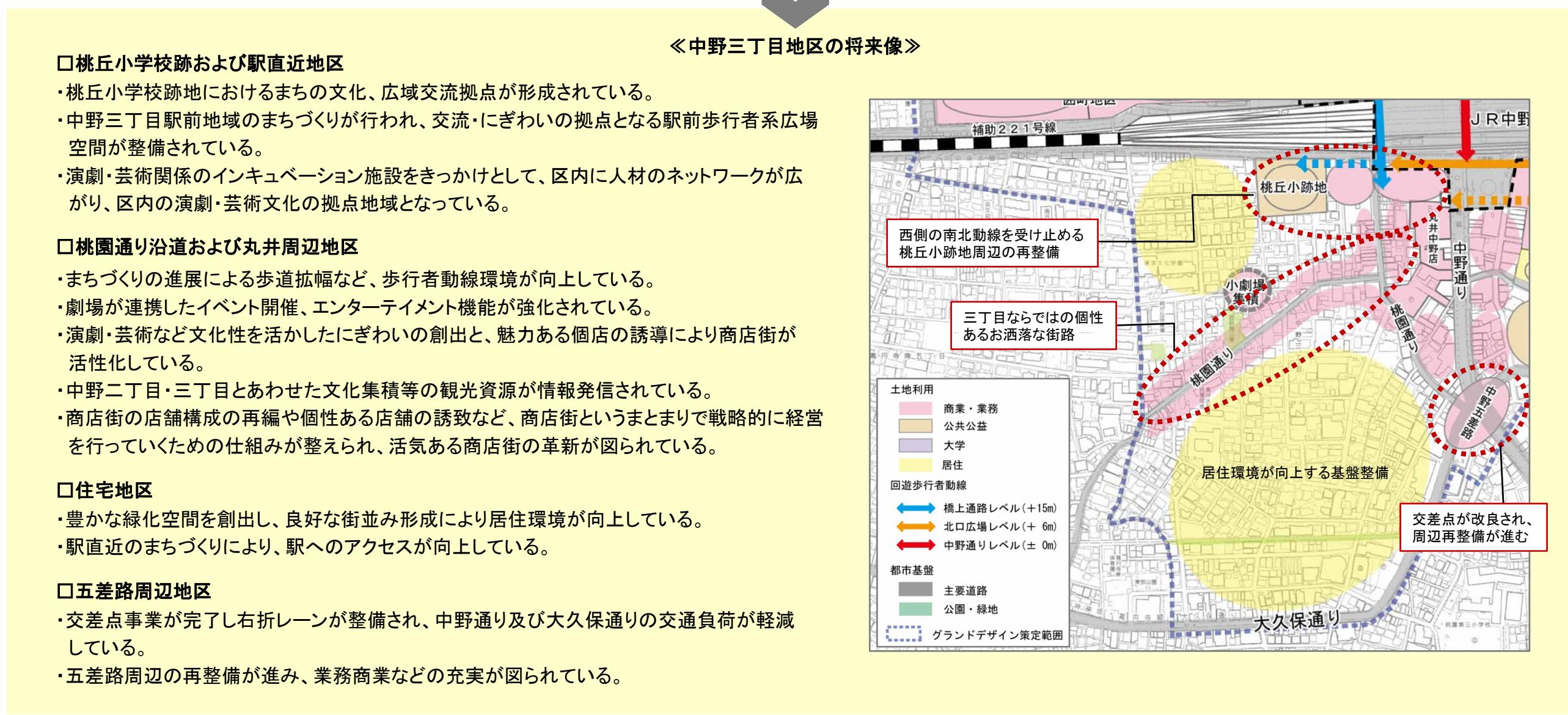
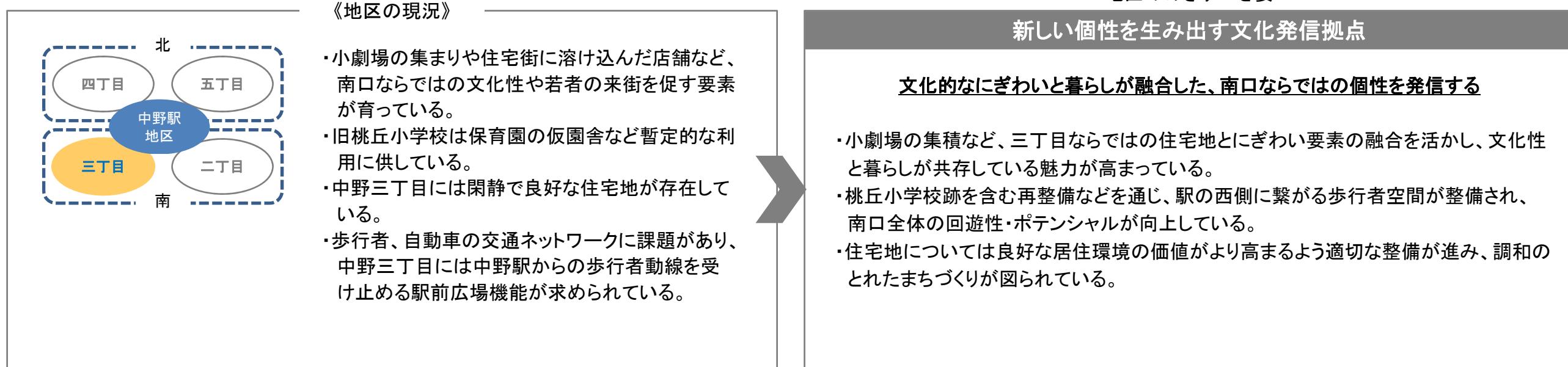
3-1. 中野四丁目



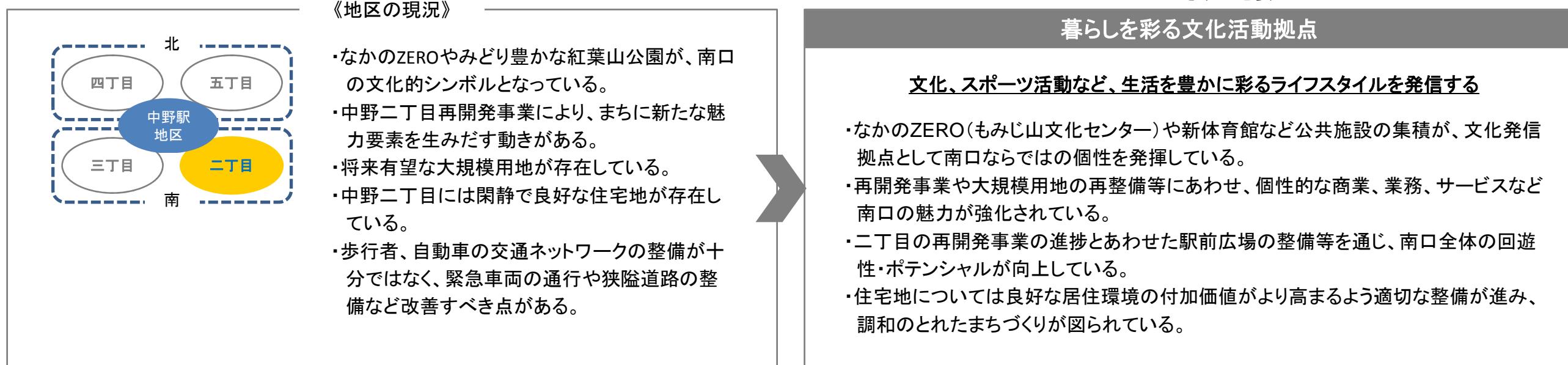
3-2. 中野五丁目



3-3. 中野三丁目



3-4. 中野二丁目



4-1. 中野駅地区の考え方

《地区の現況》

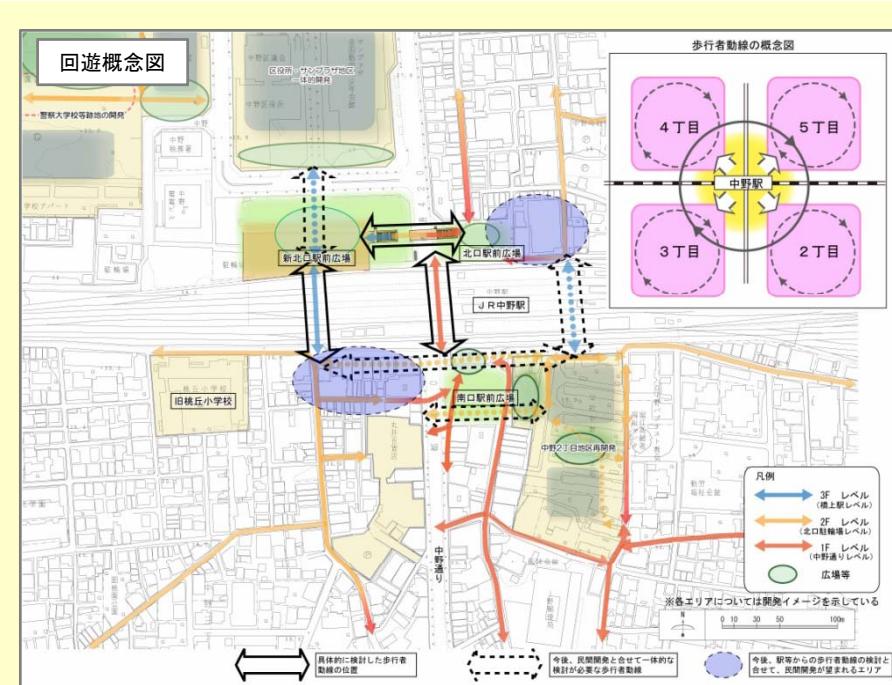
- 地形的なまちの分断や交通施設の不足等、都市の交通結節点として様々な課題を抱えている。
 - 既存の南北駅前広場の面積及び必要な機能不足
 - 高低差のある地形と鉄道高架による市街地の南北・東西分断
 - 中野通りや周辺道路の歩行者空間・歩行者動線の不足
 - 駅及び駅周辺におけるバリアフリー化の不十分
 - 周辺開発と一体的な景観の形成やオープンスペースの確保が必要
- 今後の機能改善、更新にあたり、周辺のまちづくりと一体となりネットワークされた回遊空間を形成するとともに、駅を中心として広域も含めた交流を促進し、中野駅周辺が相互に価値を高めていくことが重要。

《地区のめざすべき姿》

駅とまちが融合する魅力的なにぎわい拠点

中野駅地区は、様々な活力を相乗的に広げて行く要としてまちと駅、まちとまちをつなげている

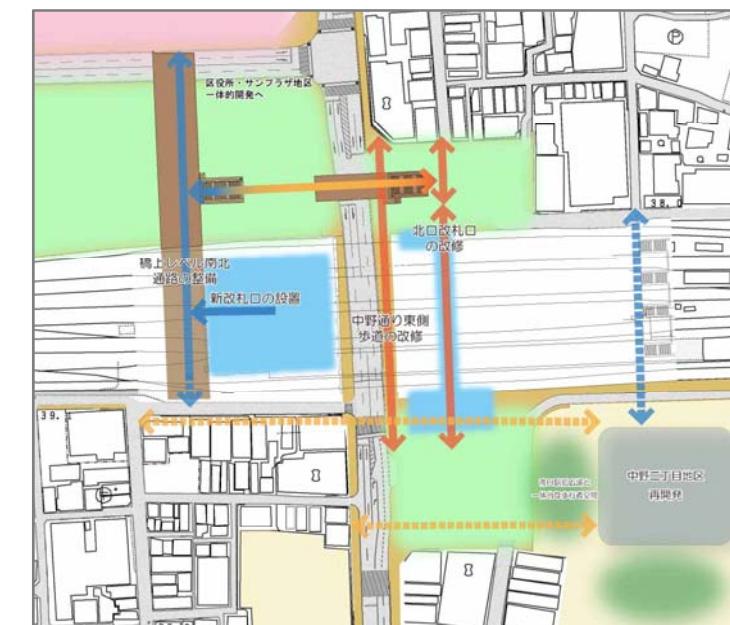
- 交通施設の集約化、わかりやすさと乗り換えの利便性が向上されている。
- 周辺と一体となった立体的な歩行者ネットワークが形成されている。
- 駅前広場と商業施設との連携や歩行者広場の確保により、賑わいが創出されている。
- 中野区の玄関口としてみどりやうおいが感じられる場が創出されている。
- 回遊の要となる駅としての機能が、より高められている。



《中野駅地区的将来像と回遊イメージ》

中野駅地区は、まちとまち、まちと駅とを繋ぐ活力の要として新たな東西・南北動線が整備され、歩行者動線や交通結節点としての機能が強化されている。

改札口配置及び新たな南北通路の考え方



□新たな南北通路

- 中野通り西側の橋上レベルに新たな南北通路及び改札口を配置

□既存駅舎

- 現北口駅前広場に面するよう、北口改札を改修

□中野通り東側歩道

- 現在のバス乗降場を移設し、幅員を拡幅

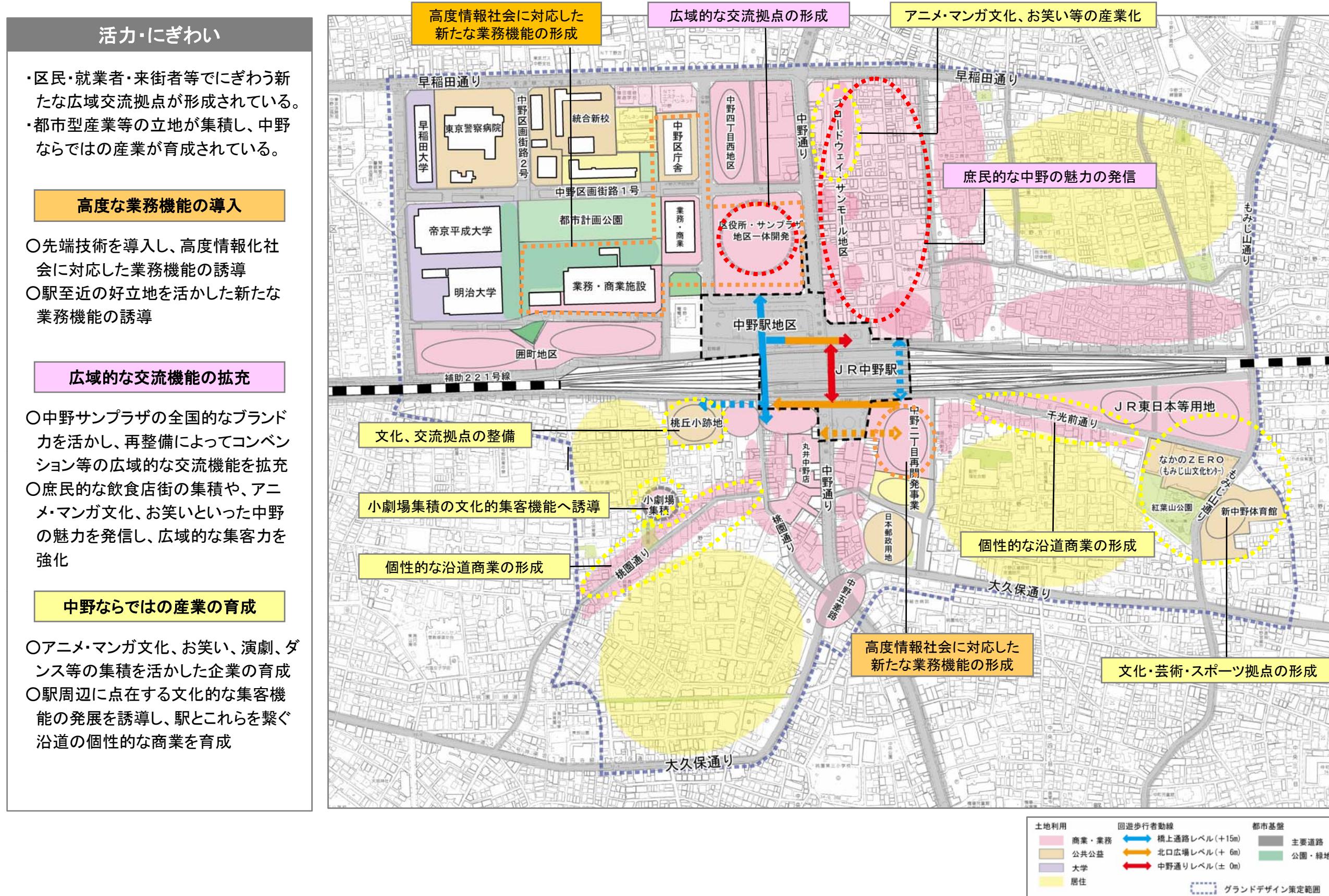
駅前広場の考え方



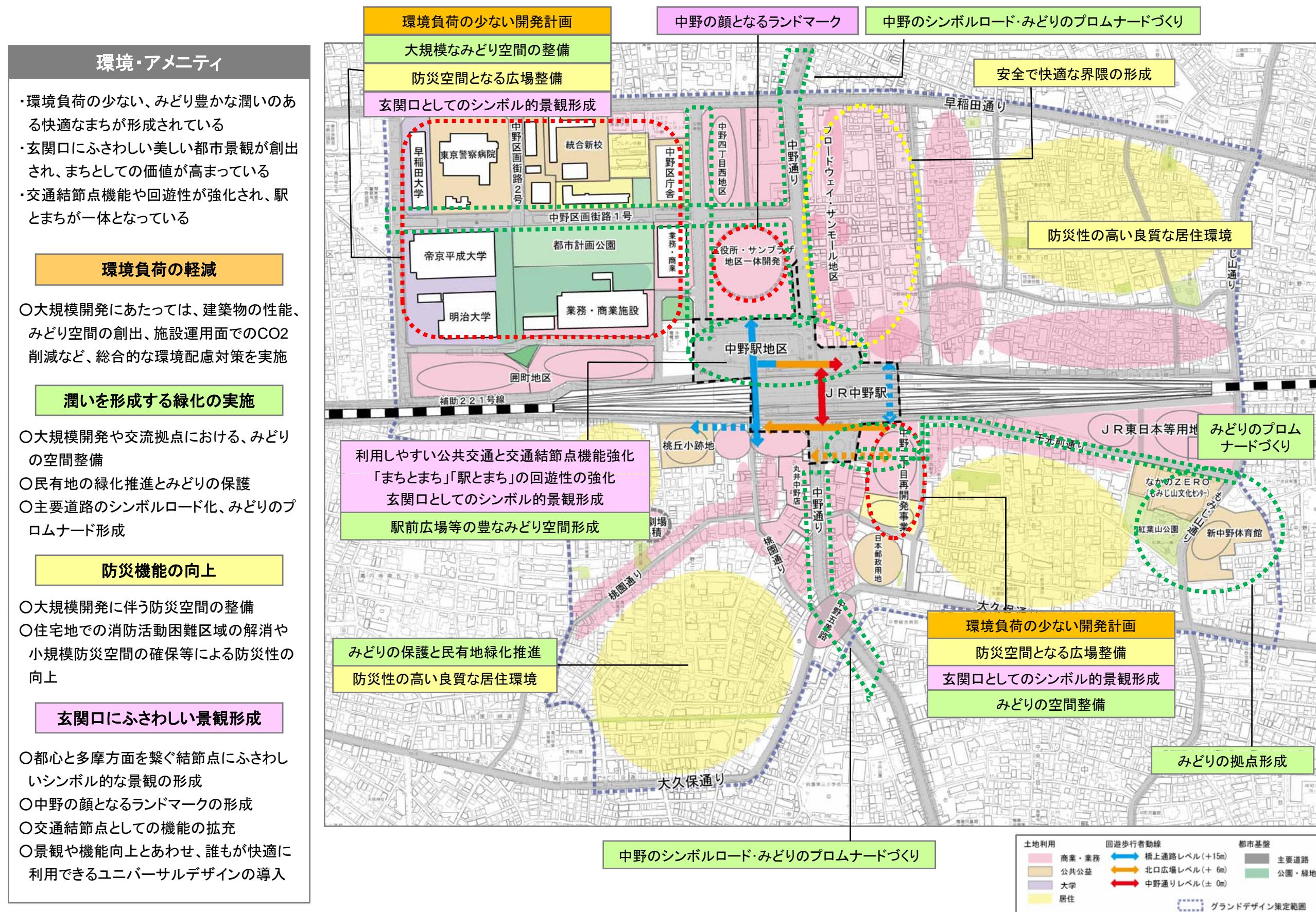
□新北口駅前広場:

- 多層構造による交通施設の集約
- 区役所サンプラザとの一体性のある整備
- 現北口駅前広場:歩行者系広場への改修
 - 新北口、北口駅前広場はデッキにより接続
- 南口駅前広場:周辺まちづくりと合わせた改修
- 西側新改札口と中野三丁目との接続:
 - 駅前広場機能の確保

5-1. 活力・賑わい：中野駅周辺に展開される“活力・にぎわい”を業務、交流、産業の視点で捉える



5-2. 環境・アメニティ：中野駅周辺に展開される“環境・アメニティ”を環境負荷、みどり、防災、景観の視点で捉える



5-3. 情報先端都市：中野駅周辺に展開される“情報先端都市”的将来像を、情報技術によって向上する利便性の視点で捉える

情報先端都市

- ・誰もが簡単にICTを利用でき世代や地域、国籍を越えたコミュニケーションがスムーズに行われている。
- ・ユビキタスな基盤整備により、高齢者や障害者も安心して暮らせるサービス等がより充実している。
- ・u-Japan政策に合致する独創的なサービスや新しい社会システム等が生みだされ、誰もが等しく利便性や快適性を享受できている。

安全安心の形・質

- 事故防止や歩行者ナビゲーション、緊急車両の運行支援等の交通システムが充実、誰もが安心して活動できる
- 医療拠点と連携した地域の医療・介護システム等により、安心な一人暮らし可能となる
- 地域の情報基盤を活用して、離れていても家族と繋がり、居場所を確認できる

暮らし方・暮らしの質

- 施設の情報基盤を活用して、食品等の流通経路を確認するなど、安心安全を個人でコントロール
- 対面による販売や、時間・場所を選ばない買い物・サービス等の組合せにより、個人の生活にあつた、より快適でスマートな活用ができる
- 多言語翻訳サービス等が身近になり海外の人や物・コトの関わりが拡充する

働き方・ビジネス環境の質

- 時間や空間を超えた快適なコミュニケーションで仕事の効率化、グローバルなビジネスが身近になる
- 企業間、店舗間の柔軟なコラボレーションが実現し、様々なサービスが生みだされる
- 個人の発想が形になりやすく、スマートオフィス等から大きな可能性が広がる

関連用語の解説（出典：総務省情報通信政策）

□ ICT	: Information and Communications Technology = 情報通信技術
□ ユビキタスネット社会	：「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークに簡単につながり、あらゆる人や物が結びつく、ICTが日常生活の隅々まで普及し、簡単に利用できる社会
□ u-Japan	: e-Japan(情報化促進)からu-Japanへ、ユビキタス(Ubiquitous)のUに加え、ユニバーサル、ユーザー・オリエンテッド、ユニークの三つの成果のUを表す (ユビキタスネット・ジャパン) Universal(ユニバーサル)；人に優しい心と心の触れ合い、User-oriented(ユーザー)；利用者の視点が融け込む、Unique(ユニーク)；個性ある活力が湧き上がる

業務地区全般

情報化による就業者のワーカーライフバランスの充実
産学公連携による新業態・新サービス展開
電子決済・手続きの進んだ公共施設
多言語の施設情報・まち案内提供

商業地区全般

購買チャネルの多様化による利便性向上
商品選択の幅、安心安全確認の向上
多言語の店舗情報・まち案内提供
異業種コラボレーションによる新業態・サービス提供

住宅地区全般

医療拠点と連携したシステムによる安心な暮らし
職住一体、スマートオフィスでのビジネス展開

中野駅周辺の交通環境全般

緊急車両の運行支援
障害者・高齢者歩行支援システム
情報技術を駆使した道案内

土地利用

- 商業・業務
- 公共公益
- 大学
- 居住

回遊歩行者動線

- 橋上通路レベル(+15m)
- 北口広場レベル(+6m)
- 中野通りレベル(±0m)

都市基盤

- 主要道路
- 公園・緑地

グランドデザイン策定範囲

6. 展開ステップの考え方：まちづくりが進み、まちが成長するイメージを3段階の時間軸で捉える

